



知事が行く!  
突撃取材! Part2  
～三重のひと～

第17回

～災害の備えは日常生活から～

# 名張で広がる アイデア満載の防災活動

インタビュー詳細版

(お話いただいた方)

中央ゆめづくり協議会 防災防犯部会

部会長

くぼた さだまさ  
久保田 定勝さん

(聞き手)

三重県知事

鈴木 英敬



くぼた さだまさ  
久保田 定勝さん

**知事** : 防災・減災に向けた活動と日々の生活が一体となった「防災の日常化」を実現していくために必要なことは何でしょうか。

**久保田** : 普段の生活の中で、ちょっとしたアイデアから防災につながることは多いものです。私たちは、電気やガス、水道などのライフラインが止まった時に何が必要か、気づいてもらうための取り組みを行っています。例えば、調理には最低限、水と熱源としてカセットボンベが必要など、いろいろな気づきの中から防災について考えてもらうことが大切だと思います。

備蓄ひとつとっても、一度に1週間分を揃えるのは大変ですが、日ごろから一つずつ用意してもらえたらいいですね。

**知事** : 仕事や子育てなどで時間がとりにくい若い皆さんにも、防災活動に参加してもらうため、どんな工夫をされていますか。

**久保田** : 子育て中の方に、防災ということを最初から全面に出すと、「面倒」「時間が取れない」と敬遠されてしまいます。そういうイメージを払拭し、気軽に参加していただくために、“サバイバルクッキングゲーム”や“100円防災グッズ”、“缶乾レシピ”などで興味を持っていただけるように工夫しています。



地域の特性に合わせた活動が消防庁の第21回防災まちづくり大賞「日本防火・防災協会会長賞」、県の「みえの防災奨励賞」、名張市の「あれっこわい認定制度第3号」を受賞。

**知事** : “サバイバルクッキング” や “缶乾レシビ” も、防災だけではなく、普段の生活にも役に立つので、みんな参加しやすいでしょうね。

**久保田** : そうですね。最近、日本のあちこちで地震が起こり、その怖さを実感している方も増えているので、若い人にも防災意識は浸透してきたと思っています。

**知事** : このような誰もが簡単に取り組むことが出来るアイデアが出てくる秘訣を教えてください。

**久保田** : 女性の防災部会委員やアドバイザーも在籍していますので、日常生活にも役立つ防災アイデアを出していただいています。女性たちが加入してからは活動が盛んになり、知事からも表彰状をいただけるところまで発展しました。また、私と協議会の会長は元・消防署員だったので、防災に関して地域の皆さんとも強力な体制がとれ、さまざまな提案や訓練などの手法を考え出していったのではと思います。

**知事** : 久保田さんのような防災のプロと、普段の暮らしを知る女性たちなど、多様なメンバーの掛け算によってベストな体制ができたんでしょうね。

**久保田** : 偶然でしょうけど、私たちは恵まれた時代に加入したということです。

**知事** : 最後になりますが、今後、部会として取り組んでいきたいことをお願いします。

**久保田** : これからは避難時の要援護者の対応も考えていきたいです。また、この地区ではペットを飼っておられる方が多いため、避難時のペット対策も必要です。今はペットを、我が子のように育てる人も多いので積極的に取り組んでいきたいです。



在宅避難用に考えられた“缶乾レシビ”。仕事や育児に時間がとられ、ゆっくりと料理ができない方にもおすすめです。



自分たちの街は自分たちで守るため、部会員の皆さんと日常生活の中で防災への取り組みができるアイデアを考えている久保田さん。



釣り用のベストのポケットに、懐中電灯などの防災グッズをたくさん詰めた防災ベストを試着。



知事 : 今、おっしゃっていただいたように地域の実情に応じた課題を、これからも知恵を出し合って克服していただければと思います。

久保田 : がんばります。

知事 : がんばってください。ありがとうございました。



※インタビューの内容は、読みやすさの観点から一部要約等を行っています。

※記載内容、写真の無断転載を禁じます。

※内容に関するご意見・お問い合わせは、三重県戦略企画部広聴広報課まで

〒514-8570三重県津市広明町13

☎ 059・224・2788 FAX 059・224・2032

E-mail koho@pref.mie.jp